

放射線管理は事務が行っています



この人：神戸学院大学 礒部久美 氏

この人, こんな所

インタビュー担当：放射線安全取扱部会広報専門委員
宮本昌明（神戸大学研究基盤センターアイソトープ部門）

今回は、神戸学院大学の主任者である礒部久美さんにご登場いただきます。

宮本：まず、神戸学院大学の放射線施設についてご紹介ください。

礒部：本学の非密封施設は、神戸市西区の有瀬キャンパスにあり、1973年開設当時の施設をそのまま使用しています。2年前、地下埋設式貯留槽が、念願かなって晴れて地上式に移行しました。私の大学での主任者の責務は、これで終了したと考えています。……冗談ですが。

本学は、非常にレアなケースですが、放射線管理は事務が行っています。スタッフ（写真1）は、文系が多く、放射線とは縁もゆかりもない方ばかりですがとても協力的です。「がんにならへんやろね？」と冗談を言いながらも手伝ってくれます。必要な機械の購入を大学に要求する際も、何の機械なのかおそらく理解できないまま、それでも放射線管理に必要なのだからと、熱心に大学と交渉してくれます。このようなスタッフに恵まれたことを、この紙面をお借りして感謝申し上げます。

一般向けの放射線基礎講習の資料を子供の夏休みの宿題にしたいと非常勤の方から申し出があったり、“アイソトープ”と言う言葉を非常



写真1 スタッフ一同

勤の方が抵抗なく使ったりするのも、一般の方への放射線教育の一役を担っているのかもしれませんが。

利用者は、2007年に薬学部がポートアイランドキャンパスに移転したことで激減しましたが、今は栄養学部の研究者が少なからず利用しています。

本学の栄養学部の学生は、臨床検査技師国家試験受験資格を得るために、放射性同位元素学実習（RIA等）を履修していましたが、最近は施設見学に替えています。臨床検査技師を目指す学生が、放射線の取扱を学習しないまま卒業するのは残念な気がします。薬学部では、公衆衛生学の中で放射線を学習しており、かつて開講していた放射薬品学の履修はありません。福島第一原子力発電所の事故により放射線への関

心が高まり、文系学生に放射線の基礎講習を行いました。おそらく薬学部学生より放射線の知識は上がったと思われます。ところで、薬剤師国家試験での放射線関係の問題では、本学受験生の正解率が低い傾向にあるということで、今後は放射線がカリキュラムに組み込まれる模様です。これから発展の見込まれる分子イメージングの分野での放射性医薬品の調剤・管理を担う薬剤師の期待は多いに高まっており、放射線薬品学の実習の復活を願っています。

宮本：こちらの施設ならではのご苦労や工夫などを教えてください。

磯部：事務が放射線管理を行うことの苦労はありました。面白いことに、教員サイドは放射線取扱主任者の権限については理解しているので、あまり問題はありませんでした。当時、危険な放射線業務（管理だけなのですが……）を事務が行うのは、事務の職務の範疇を超えるのではないかと、との意見が職員組合から学長に寄せられ、私以外の事務が管理業務の実務は行わないことになりました。これ以降、教員側が廃棄物の運び出しや主任者が不在時の簡単な緊急時対応を行ってくれる体制になりました。出張から戻って来たら、教員から「汚染がありましたが除染しました。除染前後のデータはこれです。」と全ては終了したとの報告を受けたこともあります。本学に赴任して以来、放射線業務従事者である教員と、信頼関係を築きながら、放射線管理体制を共に構築してきたような気がします。

機械の購入や営繕工事については、出来る限り私大助成を利用しています。2年前の貯留槽更新では、文部科学省の学校施設耐震改修事業補助事業制度を利用しました。予算削減で締め付けが厳しい中、出来る限り助成金を利用されてはいかがでしょうか。

宮本：磯部さんが放射線管理に関わるようにな

ったきっかけを教えてください。

磯部：大学3年生の時、放射線取扱主任者試験にたまたま受験して合格したのが始まりです。放射線関係への就職は考えていなかったのですが、私自身より主任者資格を社会が欲していたために、紆余曲折しながら今日に至った気がします。ペーパー薬剤師なのはもったいないとの声を聞きますし、放射線管理は苦労はありますが、楽しくやっています。

宮本：福島第一原発事故に関連した活動にも力を入れておられると伺いましたが。

磯部：福島第一原発事故直後から支援活動に参加していました。今は、環境省除染情報プラザの放射線専門家派遣講師としての活動を続けています。“セシウムは、身体に溜まる”，“セシウムは、0でない”と嫌”と言った思い込みが、まだ根深いために、給食に地元産の食材を使いたいが、保護者が不安がるので難しいと伺っています。福島県の子供達への放射線教育は、極めて重要です。将来、彼らが福島県外に就職して、そこでいじめや差別を受けるかもしれません。そうなったとしても、自分で自分を守る正しい知識を身につけてもらう必要があります。

避難指示解除準備区域の南相馬市小高地区は、住民帰還に向けて除染が着々と進んでいます。以前から南相馬市で支援活動を続けている友人の手伝いで、帰還を希望する住民宅の屋内汚染の測定を行いました（写真2）。空間線量は、それほど高くありませんし、室内汚染も拭取れば十分です。しかしながら、住民の多くは、帰還する意思はないそうです。

ところで、福島第一原発事故の混乱に乗じた活動家の活発な動きが見受けられます。彼らの一部は福島県内に住民票を移して住民になりながら、あるいは自主避難者に近づいて、放射線の影響を過度に誇張して吹聴しながら福島県人を取り込むことで、彼らの思想を広めています。

主任者 コーナー



写真2 小高地区民家での表面汚染測定

す。福島第一原発事故の被害を受けていない地域でも、彼らは活発に活動しています。被災者支援のための募金活動では、集まった募金がこのような活動家の資金源に流れるケースもあるようです。募金の際は、必ず主催者を確かめてくださるようお願いします。

福島県への風評被害、非科学的な思い込みの解決には、2014年のノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの言葉の通り、教育しかないと考えています。

宮本：本業以外での個人的な趣味や活動について教えてください。

磯部：趣味はダンスで、自称ダンサーです。昔はヒップホップ、ソウル、R & B等ほぼ全てのジャンルを踊ることができましたが、今は女性らしさを魅せるジャズダンス等のガールズ系がほとんどです。数年前までウィッグをかぶって、つけまつげを付けて、ヘソを出して踊っていました。ダンスは、かなりの筋力が必要で



写真3 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス

す。ダンスを続けていると、身体に脂肪が付く暇がありません。メタボリックシンドロームに悩んでおられる方には、是非ダンスをお勧めします。

宮本：最後に神戸学院大学周辺のことについてご紹介ください。

磯部：有瀬キャンパスは、神戸市よりむしろ、明石焼きで有名な明石市の文化圏に入ります。淡路島を望む高台にあり、昼は明石海峡を行き交う船をのんびり眺めることができます。夜は明石海峡大橋のライトアップが綺麗です。色彩は季節で変化しますが、毎正時に変化する虹色は特に美しいです。

ポートアイランドキャンパス（写真3）は、外国のような雰囲気があって、映画やドラマのロケによく使用されています。神戸ポートピアホテルが経営するレストランは、評判が高く多くの方がいらっしゃっています。食事の後のボーアイしおさい公園（ポートアイランド西公園）の散策は、神戸らしい風景をお楽しみいただけると思います。

是非、神戸学院大学にお越しください。

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

上養義朋（委員長）、池本祐志、川辺 陸、鈴木朗史、廣田昌大、藤淵俊王、宮本昌明、吉田浩子